

令和4年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和5年3月

学校法人資生学園 認定こども園つぼみ幼稚園

1. 園の教育目標

園児に遊びを通して集団生活を経験させ、心身共に健全で自主創造の精神にとみ、情操豊かな子どもを育てる。

- 1、じょうぶで明るく、たくましい子どもを育てる
- 2、自分から進んで取り組み、やり遂げる子どもを育てる
- 3、友だちとなかよく助け合う子どもを育てる
- 4、個性豊かで、創造性にとむ子どもを育てる

2. 本年度の経営方針

教職員一人ひとりが、園児の豊かな成長を願い、創意工夫と協働・協調のもとに教育活動を創造し、信頼される幼稚園づくりに努める。

3. 評価項目の達成及び自己評価

評価項目	取り組み状況と改善の方策
子どもが、毎日安心して園に通えたり、預かりに来れるように関わっている。	登園時には渋る様子や保護者との離れがたさがみられる子どもがいるが、安心して楽しく過ごせるようコミュニケーションをとる。
遊びを通して工夫したり、協力したりするよう関わっている。	今年度は全学年で開放した自由遊びを行い、好きな場所で、好きな遊びを伸び伸びと楽しむ姿が見られたため、今後も継続していく。
生活や遊びのなかで、自分から取り組み、最後までやろうとするように関わっている。	特に生活面では、衣服の着脱や所持品の始末など最後まで自分のできるようなかかわりが必要である。
子どものよさを認めて評価しようとしている。子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じている。	子どもの姿を褒める、認めることを意識し、子どもの意欲につながるよう心掛けている。複数の教師で子どもの姿を見取り、最善の手立てを考え試していく。
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行っている。	感染症対策として基本的な手洗い・うがいは継続していく。子どもたちへの指導だけでなく家庭とも連携できるように発信していく。
子どもの実態や配慮事項などを報告や連絡・相談等から、職員間の共通理解を図ろうとしている。	職員会議にてクラスでの出来事や連絡事項を報告し、全職員で共有している。報告・連絡・相談を今後もしっかり意識していく。

年に1回以上公開保育を行い、日々研鑽に努めている。	園内研修にて保育を見せ合い、成果や課題について話し合うことで学びになっている。今年度は札私幼の公開保育にも参加することができた。
各研修会や研究会に積極的に参加して、学びを幼児理解と保育活動に生かしている。	研修会に参加し、学びを保育に取り入れるようにしている。保育については日々変化していくため、研修会に参加し新たな学びを得られるよう参加する機会を大切にする。
子どもへの安全配慮がなされ、事故防止に努めている。	遊び方の指導や環境構成など事故防止については継続して徹底し、突発的に起こってしまった時の対応についても丁寧に行うように心掛ける。
保護者と共に子どもを育てるという姿勢をもち、保育内容を伝えたり、話し合ったり、預かり中の様子を伝えている。	子どもの様子を伝えられるよう心掛けているが、1回1回のコミュニケーションを大切に、園での様子が伝わるよう積極的にかかわっていく。
園だよりや学級だより、参観懇談、連絡帳、ホームページ等を通して幼稚園の情報を発信している。	おたよりでは、園での活動や指導について具体的にわかりやすく伝わるよう内容を検討したい。フォトギャラリーでは今後も継続して園の様子を発信していく。
地域の資源（円山公園、旭山公園など）や人材（緑丘小、たんぼぼの丘、中学生の職場体験など）により、教育活動を豊かにしている。	園外保育では子どもたちも伸び伸びと体を動かし、楽しんで遊ぶ姿が見られている。コロナ禍で以前よりも地域とのかかわりが減っているが、今後規制の緩和も予想されるため、小中学校や近隣施設との交流を再開できるよう進めていきたい。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組み方法
新たなものに挑戦	保育活動や作業内容を振り返り、良いものは残しつつ、新たなものに挑戦、変化させていくことも必要である。
チームワークの発揮と仕事分担	一人ひとりがスキルアップを目指して自ら行動し、効率よく仕事分担が行えるようチームワークを意識する。

6. 学校関係者評価委員会の意見（総合的な評価結果と意見）

結 果	理 由
A	意見交流会アンケート(2回)と学校評価アンケートを実施し、保護者との連携を密にし、課題の把握と改善の方策を検討していることは評価できる。今後も適切に自己点検、自己評価し、保育の質の向上に向けて教職員のスキルアップと活動の改善を期待したい。